

学会員（教員）研究動向〔2025.4～2026.3〕

名前	種別	書名，論文名等，（掲載書名・誌名（巻号），出版社・発行所），頁	発行年月
相澤 雅文	著書 （編著者）	『事例とQ & Aで学ぶ！スクールカウンセラーと教員のための発達支援入門』（相澤雅文・榊原久直・小谷裕美・鈴木英太・伊藤駿・牛山道雄・門下祐子・佐藤克敏・佐藤美幸・西村佐彩子・丸山啓史，小学館）114-133頁	2026. 2
	著書 （編著者）	『キャリア発達を支える！知的障害・発達障害のある子どもたちへの包括的性教育』（クリエイツかもがわ）	2026. 3
	論文（単著）	「知的障害児の放課後等デイサービス利用」（慶應義塾大学出版会教育と医学73（4））358-364頁	2025. 7
	論文（共著）	「京都府立知的障害特別支援学校における道徳教育に関する現状と課題」（京都教育大学総合教育臨床センター研究紀要，第5号）69-79頁	2026. 3
秋葉 武	論文（単著）	「NPO の組織基盤強化とコンサルティング—若者支援 NPO を事例として—」（『立命館産業社会論集』第61巻第4号）55-62頁	2026. 3
	研究発表等 （単独）	「NPO の組織基盤強化とコンサルティング—若者支援 NPO を事例として—」（日本経営診断学会 第215回関西西部会）	2025. 9
	研究発表等 （単独）	「NPO の組織基盤強化とコンサルティング—若者支援 NPO を事例として—」（日本経営診断学会 第58回全国大会）	2025.10
	研究発表等 （単独）	「境界を越える対話」（2025日韓市民未来対話：ソウル大学日本研究所主催）	2025.12
有賀 郁敏	論文（単著）	「近現代ドイツ・スポーツ史研究小考—社会国家におけるスポーツ医学者の活動—」（成田文庫）記念論集刊行会編『スポーツ文化のシナジー—体育・スポーツの新たなステージへの展望—』（不昧堂出版）29-44頁	2025
	論文（単著）	「スポーツは平和な社会の構築に貢献できるのか—ミヒャエル・クリューガーとスヴェン・ギュルデンブフェニツヒの論争—」（『立命館産業社会論集』第61巻第3号）63-73頁	2025.12
	論文（翻訳）	（単独訳）「ミヒャエル・クリューガー 「スポーツにおける平和思想の起源について」」（『立命館産業社会論集』第61巻第3号）43-61頁	2025.12
	その他（単著）	「ロサンゼルスオリンピックにアメリカ選手団は出場できるのか—トランプ政権と IOC—」（『さんしゃ Zapping』Vol.40 No.2（通巻209号））19-30頁	2026. 3
	その他（単著）	「私たちの歴史意識の行方—現代社会と憲法の価値—」（『卒業論文集—余暇社会の歴史と現代—』立命館大学産業社会学部有賀郁敏ゼミ）1-12頁	2026. 3
飯田 豊	論文（単著）	「国家／都市／農村：「昭和のテレビ」の考古学」（青土社『現代思想』）164-175頁	2025. 8
	論文（単著）	「視覚と触覚：ポスト「映像博」の模索」（思文閣出版『万博学／Expo-logy』（4））8-13頁	2025.12
	書評（単著）	「過去と現在、そして未来との対話：AI ユートピアの裏返しのような陰影を湛えて（ユヴァル・ノア・ハラリ『NEXUS 情報の人類史 上・下』（河出書房新社，2025年）書評）（『週刊読書人』（2025年5月23日））」3頁	2025. 5
	書評（単著）	「根岸貴哉『野球のメディア論：球場の外でつくられるリアリティー』（青弓社，2024年）書評」（立命館アジア・日本研究所『立命館アジア・日本研究学術年報』（5））183-184頁	2025. 8

飯田 豊	書評(単著)	「『プロパガンダ=悪』の前提を脇に置く：マスメディアの技術特性を超えた洞察（ジャック・エリユール『プロパガンダ』（春秋社，2025年）書評）」（『週刊読書人』（2025年10月24日））4頁	2025.10
	研究発表等（共同）	「『障害』をめぐるメディア研究の展開」（塙幸枝・樋口麻里・柴田邦臣・田中瑛・美馬達哉・飯田豊・藤嶋陽子，日本メディア学会 2025春季大会）	2025. 6
	その他(単著)	「大阪・関西万博をメディア・イベント史から振り返る ～放送は全体像を俯瞰し得たか」（日本民間放送連盟『民放 online』）	2025.12
	その他(講演)	「『フジテレビ問題』のメディア論：放送が社会とつながり直すために」（東京地区マスコミ倫理懇談会）	2026. 1
	その他(講演)	「SNS時代におけるメディアリテラシーの困難と放送事業者への期待」（放送セミナー2026 in 広島）	2026. 1
石田賀奈子	著書(共著)	『発達障害の子が羽ばたくチカラ 気になる子どもの育ちかた』（川崎聡大・神谷哲司・川上 康則・三富貴子・和田一郎・石田賀奈子，KADOKAWA）168-195頁	2025. 4
石田 智巳	論文(単著)	「教師の成長に必要な失敗とそのレベル」（創文企画たのしい体育・スポーツ（338））24-27頁	2025. 4
	論文(単著)	「体育授業研究における歴史的アプローチの意義」（創文企画現代スポーツ評論（52））49-60頁	2025. 5
	論文(単著)	「『新体育』の頃―逆流に抗して」（創文企画たのしい体育・スポーツ（338））	2026. 1
市井 吉興	研究発表等（単独）	「都市空間におけるスケートボードを「犯罪化」するポリティクスとは？：スポーツ犯罪学的試論」（日本体育・スポーツ・健康学会 第75回大会）	2025. 8
	研究発表等（単独）	「スポーツを「犯罪化」するポリティクスとは？：スポーツ犯罪学からのアプローチ」（唯物論研究協会 第48回総会・研究大会）	2025.11
上原 徳子	論文(単著)	「『水滸伝』受容とジェンダー批評の可能性 ―『女子読み「水滸伝』を手がかりに―」（『立命館産業社会論集』第61巻2号）93-103頁	2025. 9
	論文(単著)	「『警世通言』卷二十考」（汲古書院『響きあう文学 長安から江戸まで』）167-187頁	2025.10
	研究発表等（単独）	「明末の小説における「女侠」の状況とその意義」（第77回 日本中国学会大会）	2025.10
	研究発表等（単独）	「中国古典小説の変容と語り直し―唐代伝奇から現代的語りへ―」（東方学会 令和7年度秋季学術大会 シンポジウム II. 中国古典小説研究の現在地）	2025.11
	研究発表等（単独）	「明末白話短篇小説の出版研究を再検討する―「三言・二拍」を手がかりに」（「三言・二拍」についての基礎的研究 年次研究フォーラム）	2025.12
	その他(講演)	「當代東亞對中國古典小説的挪用與詮釋」（東吳大學東亞研究與跨領域人才培育課程）	2025. 9
	その他(単著)	「中国古典小説研究会・公開シンポジウム「中国古典小説のここがおもしろい！」実施報告」（日本中国学会便り（通巻四十八））8-9頁	2025.12
	その他(単著)	「令和七年度秋季学術大会の開催（東京）シンポジウムⅡ報告」（東方學會報（129））13-15頁	2025.12
江口 友朗	研究発表等（単独）	「東南アジアでの自律的な相互扶助の実態：多義的な意味を巡る考察」（社会科学の方法論と理論を架橋するための研究会，web）	2026. 1
	研究発表等（単独）	「20世紀末～ミレニアムにかけての制度アプローチの理論的深化に関する再検討」（科学史・思想史研究会，中京大学）	2026. 2

呉 世雄	著書(分担執筆)	『福祉サービスの組織と経営』(千葉正展・早瀬昇(編), ミネルヴァ書房「第2章 福祉サービスを提供する組織—社会的企業」)41-48頁	2026. 2
	研究発表等 (単独)	「介護施設における変革志向の組織づくりに関する実践的研究」(第4回全国老人福祉施設大会・研究会議)	2025.12
	研究発表等 (単独)	“Resistance to ICT and Robotic Technologies among Care Workers in Japanese Nursing Homes: Influencing Factors and Workplace Impacts” (Society for Social Work and)	2026. 1
大澤 聡	著書(分担執筆)	『文明史のなかの「日本型教育」: 歴史と展望』(法律文化社, 第9章「制度の半歩外にある教育」)209-228頁	2026. 3
	論文(単著)	「知的中間層の夢」(中央公論139 (7))92-97頁	2025. 7
	論文(単著)	「言語化万能というイデオロギー」(世界 (岩波書店)(1001))92-99頁	2026. 1
	書評(単著)	「井上義和『降旗元太郎の理想——名望政治家から大衆政治へ』/白戸健一郎『中野正剛の民権——狂狷政治家の矜持』」(メディア史研究 (58))113-122頁	2025. 9
	その他(単著)	「没落しゆく教養主義の実況中継者: 一九七〇年代の紀田順一郎」(近代出版研究 (4))126-137頁	2025. 4
	その他(単著)	「テレビのたたみ方?: 再「小新聞」化するジャーナリズムⅢ」(Voice (PHP 研究所)(569))66-73頁	2025. 5
大谷 哲弘	論文(単著)	「高校3年生の「キャリア選択における納得」および「キャリア選択における妥協」の構造と経時データによる検討」(学校カウンセリング研究 26) 23-33頁	2026. 3
	研究発表等 (単独)	「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)由来の青少年のトラウマ反応の収束—2024年調査の結果から—」(日本教育心理学会 第67回総会)	2025.10
大野 威	論文(単著)	「労働裁判の起源と誕生の背景: 絶対王政期におけるリヨン絹織物ギルドの取締役親方制度 (上)」(『立命館産業社会論集』第61巻第3号) 1-12頁	2025.12
	論文(単著)	「労働裁判の起源と誕生の背景: 絶対王政期におけるリヨン絹織物ギルドの取締役親方制度 (下)」(『立命館産業社会論集』第61巻第4号)37-54頁	2026. 3
	研究発表等 (単独)	「労働審判の起源と背景——絶対王政期におけるリヨン絹織物ギルドの紛争解決制度」(社会政策学会 第151回大会)	2025.10
岡田 まり	研究発表等 (共同)	「スーパーバイザー研修のモデル開発 —試行研修の評価—」(岡田まり・片岡靖子・潮谷恵美・野村豊子, 第33回 日本社会福祉士学会)	2025. 7
岡本 尚子	論文(単著)	「外国にルーツを持つ児童の算数文章問題における困難性—視線計測データの分析を中心に—」(『立命館産業社会論集』第61巻第4号)19-35頁	2026. 3
	研究発表等 (共同)	「タブレットとノートへの手書きメモが一定期間後の復習にもたらす差異」(岡本尚子・吉岡篤志・神島遼人・椿裕尊, 日本教育工学会 2025年秋季全国大会 (第47回大会))	2025. 9
	その他(講演)	「ノートとタブレットへの筆記は記憶にどのような違いをもたらすのか」(第57回繊維維学会 紙パルプシンポジウム)	2025. 9
御旅屋 達	著書(共編著)	『若者支援政策の現在地——こども家庭庁/こども基本法は「若者」をどう位置づけたのか』(岡部茜・御旅屋達・原未来編著, 明石書店)	2026
	論文(単著)	「子ども・若者総合相談センターの組織構造と運営課題——自治体間の多様性と資源の制約に着目して」(『立命館産業社会論集』第61巻第2号)51-64頁	2025.11
	研究発表等 (単独)	“Reevaluating the Connection between High Schools and the Labor Market in Japan: Limits and Reorganization” (International Sociological Association 5th ISA Forum of Sociology)	2025. 7

角田 将士	著書(分担執筆)	『18歳からの学びを拓く』(稲井達也・成田秀夫監修, 大学図書出版)22-38頁	2025. 4
	論文(単著)	「子どもが主役になる「問題解決型学習」成功のポイント「①主体的な学びが成立する条件と熱中する授業づくり」」(明治図書編『社会科教育』(795))10-13頁	2025. 7
	論文(単著)	「探究としての歴史学習は何をめざすべきか—中等歴史単元『戦争体験の継承について考えよう』の場合—」(日本社会科教育学会編『日本社会科教育学会全国大会発表論文集』(21))181-184頁	2025.11
	論文(単著)	「その授業、間違っていないですか? NG 分析から導く社会科授業の新公式「NG ポイントを学び授業改善の確かな指針を得る」」(明治図書編『教育科学 社会科教育』801) 4-9 頁	2026. 1
	論文(単著)	「歴史の因果性と文学の因果性—中学社会科教科書のコーパス分析を起点として—」(石原千秋・角田将士・深谷圭助・渡部竜也, 早稲田大学大学院教育学研究科編『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』(36)) 1-10頁	2026. 3
	研究発表等 (単独)	「紛争をテーマとした社会科授業・カリキュラムは何をめざすべきか—最近の研究・実践より—」(社会科カリキュラム研究会)	2025. 5
	研究発表等 (単独)	「紛争をテーマとした社会科授業・カリキュラムは何をめざすべきか (2)—授業プランに対する質問を契機として—」(社会科カリキュラム研究会)	2025. 7
	研究発表等 (単独)	「戦後80年『戦争体験の継承』を再考する初等社会科授業の実際と意義—平和博物館における望ましい展示の在り方をめぐって—」(中村祐哉・角田将士, 全国社会科教育学会 第74回全国研究大会 (自由研究発表))	2025.10
	研究発表等 (単独)	「紛争をテーマとした社会科授業・カリキュラムは何をめざすべきか (3)—学校現場での課題を踏まえた研究・実践から—」(社会科カリキュラム研究会)	2025.10
	研究発表等 (単独)	「探究としての歴史学習は何をめざすべきか—中等歴史単元『戦争体験の継承について考えよう』の場合—」(日本社会科教育学会 第75回全国研究大会 (シンポジウム))	2025.11
	研究発表等 (単独)	「紛争をテーマとした社会科授業・カリキュラムは何をめざすべきか (4)—当事者の実践から—」(社会科カリキュラム研究会)	2025.12
	研究発表等 (単独)	「『教育の柔軟化』と向き合う社会系教科における指導法選択の視点—概念・理論の習得と活用の一体化を軸にして—」(社会系教科教育学会 第37回研究発表大会 (シンポジウム))	2026. 2
	その他 (単独講演)	「『主体的に学習に取り組む態度』をいかに育むか」(大分県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会)	2025. 6
	その他 (単独講話)	「博物館展示における『問い』の役割—社会科教育学研究の視点から—」(2025年度立命館国際平和ミュージアムボランティアガイド研修)	2025. 6
	その他 (単独講座)	「日本の戦争体験をどう継承していくべきか—『継承の主体』に求められるもの—」(三重県教育委員会令和7年度「平和を探究し、創造する高校生育成事業」)	2025. 8
	その他 (研修講座)	「探究的な学びを支える社会・地歴公民科の授業づくり」(三重県総合教育センター)	2025. 8
	その他 (単独講話)	「社会科授業における『問い』の役割—授業づくりのための見取り図を持とう—」(京都市中学校社会科教員交流会)	2025. 9
	その他 (研修講座)	「深い思考を促す社会科の授業づくりに向けて」(東大阪市立教育センター)	2025.10
	その他 (単独講話)	「探究的な学びを支える社会科の授業づくり—『見方・考え方の成長』とその見取り—」(兵庫県川西市立明峰中学校 令和7年度社会科授業研究会)	2026. 2

柏木 智子	著書(共編著者)	『プラットフォームとしての学校』の実践—多職種・多機関連携のマネジメントと教員の役割』(柏木智子・後藤武俊・片山紀子・百合田真樹人, 晃洋書房)248頁	2025. 6
	論文(単著)	「「ケアする学校」の理論と学び—公正で民主的な社会形成に向けて」(青土社現代思想 (53-4))52-66頁	2025. 4
	論文(単著)	「「探究学習」を楽しむ方法～なぜ探究が大事なのか～」(東京書籍東書 E ネット)	2025. 4
	論文(単著)	「「探究学習」を楽しむ方法～課題の設定をどう考えるか～」(東京書籍東書 E ネット)	2025. 5
	論文(単著)	「「探究学習」を楽しむ方法～成果主義からの脱却～」(東京書籍東書 E ネット)	2025. 6
	論文(単著)	「社会の分断に抗する民主的社会的再生に向けた公教育の責任—公正とケアの視点から」(日本教育行政学会年報 (51)) 4-23頁	2025.11
	論文(単著)	「社会の分断に抗する学校の役割」(日本教育会日本教育 (555))10-13頁	2026. 2
	論文(単著)	「主体的・対話的で深い学びを引き出す授業と ICT 活用 —ケアの態度の形成を促す効果に着目して」(卯月由佳・柏木智子, 国立教育政策研究所 令和 5-7 年度プロジェクト研究 「「データ駆動型教育」の課題と実現可能性に関する調査研究」報告書)	2026. 3
	論文(共著)	“A case study of successful leadership by an elementary school principal in Japan.” (Yada, T., Kashiwagi, T., Nishino, M., Ono, M., Honjo, M., & Sato, H., Emerald PublishingJournal of Educational Administration, Advance online publication.)	2025. 9
	研究発表等 (単独)	「シンポジウム「子どもたちのウェルビーイングを支える養護教諭の役割～子どもの貧困と「ケアする学校」づくり」」(『日本養護教諭教育学会誌』第29巻第2号) 8-40頁	2026. 3
	その他 (単独講演)	「子どもの人権と「ケアする学校」「ケアする地域」づくり」(令和7年度第1回 兵庫県市町人権啓発担当職員等研修)	2025. 5
	その他 (単独講演)	「民主的で公正な社会の実現と公教育の責任—学校と教員の役割」(令和7年度京都府管理職研修)	2025. 6
	その他 (単独講演)	「公正で民主的な社会と学校の役割」(令和7年度沖縄県学校管理職マネジメント力強化推進事業全体研修)	2025.10
	その他 (単独講演)	「子どもの人権と「ケアする学校」「ケアする地域」づくり」(宝塚市じんけん講座)	2025.10
	その他 (単独講演)	「子どもの貧困とケアする学校・地域づくり—事務職員の役割」(令和7年度丹波地区小中特別支援学校事務研究協議会研究会)	2025.11
	その他 (単独講演)	「子どもたちを取り巻く状況と地域社会の関わりについて」(いちょうカレッジ専科)	2025.11
	その他 (単独講演)	「子どもの人権と「ケアする学校」「ケアする地域」づくり」(日高ふれあいのつどい人権講演会)	2025.11
	その他 (単独講演)	「子どもの貧困と「ケアする学校」」(金沢市教職員研修)	2025.11
	その他 (単独講演)	「子どもの人権と「ケアする学校」「ケアする地域」づくり」(令和7年度香美町人権教育研究協議会)	2025.12
	その他 (単独講演)	「子どもたちのウェルビーイングを支える養護教諭の役割—学校の福祉的役割に注目して:子どもの貧困と「ケアする学校」づくり」(日本養護教諭教育学会 第33回学術集会シンポジウム)	2025.12

柏木 智子	その他 (単独講演)	「子どもの人権問題について考える」(令和7年度第3回山城地方人権教育行政担当者等研究協議会)	2026.1
	その他 (単独講演)	「新年度を前に考える「揃わない前提」の学級と授業～これまでとこれからをつなぐ～」(授業づくりネットワーク大阪集会)	2026.3
加藤 潤三	論文(単著)	“The Identity and Networks of Uchinanchu in the 7th Worldwide Uchinanchu Festival :Based on the Survey on Festival Participants” (JICA Ogata Sadako Research Institute JICA Ogata Research Institute Research Paper (6)) pp 1-27	2025.5
金澤 悠介	著書(共著)	『新しいリベラルー大規模調査から見てきた「隠れた多数派」』(橋本努・金澤悠介, 筑摩書房) 1-352頁	2025.6
金山 千広	論文(共著)	「障害者スポーツセンターの機能に関する実証的研究:障害者優先スポーツ施設の現状に基づく施設類型化の試み」(『体育・スポーツ科学』34, 兵庫体育・スポーツ科学学会) 33-45頁	2025
金子 史弥	著書(分担執筆)	『スポーツ政策学』(成文堂「スポーツのステークホルダーと政策アクター」) 177-181頁	2025.11
	書評(単著)	「『パリと五輪——空転するメガイベントの「レガシー」』(佐々木夏子著, 以文社, 2024年)」(『スポーツ社会学研究』33 (2)) 96-100頁	2025.9
	研究発表等 (単独)	“Will the Tokyo 2020 Volunteers “Shine” (Again)? : Motivation and Initiatives towards a Post-Event Volunteer” (2025 World Congress of Sociology of Sport)	2025.7
川崎 聡大	著書 (編著者)	『気になる子どもの育ちかた:発達障害の子が羽ばたくチカラ』(川崎 聡大・川上 康則・神谷 哲司・三富 貴子・和田 一郎・石田賀奈子, KADOKAWA) 1-223頁	2025
	論文(単著)	「ことばの発達のつまずきの見立てと支援:言語能力のアセスメント」(東京:明治図書出版LD, ADHD & ASD:学習障害・注意欠陥/多動性障害・自閉症スペクトラム障害 23 (2)) 28-31頁	2025.4
	論文(共著)	「大学生の基礎的な読み書きスキルおよび学修困難感と学業成績や大学適応感の関連」(荻布 優子・川崎 聡大・岡野 由美子, 一般社団法人 日本LD学会 LD 研究 34 (1)) 74-85頁	2025
	論文(共著)	“Executive function in preschool children who stutter: a behavioral assessment study.” (Kohei Kakuta, Akihiro Kawasaki, Scientific reports 15 (1) p 16159	2025.5
権 学俊	著書(単訳)	『場面:報道の現場から見つめた韓国社会』(孫石熙 (著)・権学俊 (訳), 法政大学出版社) 1-400頁	2025.11
	論文(単著)	「訳者解説「広場」が育んだ民主主義—二〇一〇年代韓国社会の変革と成熟」(孫石熙著 (権学俊訳)『場面—報道の現場から見つめた韓国社会』法政大学出版社) 371-383頁	2025.11
	研究発表等 (単独)	「戦前・戦時下のスポーツと戦争—「身体」の政治と国民形成」(平和教養講座)	2025.6
	その他(単著)	「深堀り近江」(『京都新聞』)	2025.5
	その他(単著)	「「国体」のゆくえ ③歴史」(『京都新聞』)	2025.6
	その他(単著)	「国スポ80年 明確な趣旨・目的を」(『北日本新聞』)	2025.8
	その他(単著)	「国民の関心呼ぶ大会に」(『長崎新聞』)	2025.8
	その他(単著)	「国スポ80年 目的曖昧に」(『千葉新聞』)	2025.8

権 学俊	その他(単著) その他(単著)	「『国体』のゆくえ 提言編② 皇室と協会思惑一致」(『京都新聞』) 「わたの SHIGA 輝く 国スポ・障スポ2025」(『産経新聞』)	2025. 9 2025. 9
黒田 学	著書(共編著者) 著書(共編著者) 論文(単著) 論文(共著)	『排除と包摂の福祉社会—障害児者の発達保障に向けて』(黒田学・武分祥子・野村実, クリエイツかもがわ) 8-40, 192-197頁 『キーワードブック特別支援教育ハイブリッド』(黒田学・清水貞夫・平沼博将・三木裕和・向井啓二編, クリエイツかもがわ)72-73, 82-83, 150-151頁 「コラム 開発途上国における障害のある子どもたち」(『気になる子どもの育ちかた：発達障害の子が羽ばたくチカラ』KADOKAWA)210-213頁 「ベトナムにおけるインクルーシブ教育の現況—首都ハノイと中部ダナン市での調査報告」(黒田学, ディン・グエン・チャン・トゥ, 伊井勇, 『人間発達研究所通信』182) 1-8 頁	2025. 5 2025. 9 2025. 4 2025. 9
近藤 和都	著書(共編著者) 著書(分担執筆) 論文(単著) 研究発表等(共同) 研究発表等(共同)	『雑誌利用のメディア社会学：文化を可能にする「工夫」』(松永 伸太郎・池上 賢・董 鎧源・山口 敬大・高艸 賢・森下 達・山中 智省・加藤 穂香・山森 宙史・小川 豊武・安 ウンビョル・妹尾 麻美・彭 永成・日高 良祐・藤嶋 陽子・菊池 哲彦・佐藤 彰宣, ナカニシヤ出版) 1-60-283-13-73-287頁 『「見る場所」のメディア考古学——鳥取から日本映画史を描き重ねる』(杵島和泉, 小取舎)115-122頁 「清單：信息可視化的文化技艺与动画体验的变迁」(『アニメージュとリスト——情報の可視化をめぐる文化技術とアニメ経験の変容』永田大輔・近藤和都『雑誌利用のメディア社会学——文化を可能にする「工夫」』ナカニシヤ出版, 2025年の中国語訳) 「メディア研究にとって流通とはどのような問いか?：メディア空間の存在論に向けて」(谷島貫太・近藤和都, 日本メディア学会 春季大会) 「音、身体、メディア——ジョナサン・スターン特集合評会」(梅田拓也・日高良祐・今関裕太・永盛鷹司・近藤和都・藤下由香里, 『メディウム』第5号刊行記念研究会)	2025. 6 2025. 7 2025.11 2025. 6 2025.11
斎藤 真緒	著書(編著者) 論文(単著) 論文(単著) 論文(単著) 研究発表等(共同)	『子ども・若者ケアラーの社会学—ケアリング・ソサエティの創造』(クリエイツかもがわ)「はじめに」3-14頁, 「第1章 子ども・若者ケアラーの葛藤によりそう視座」18-47頁, 「おわりに」193-195頁 「自分の生活を犠牲にしない、ケアラーの自己実現をめざして」(『まなこ』123号, 武蔵野市男女表同推進センター) 2-3 頁 「コラム ヤングケアラー」(黒田学・清水貞夫・平沼博将・三木裕和・向井啓二編『キーワードブック 特別支援教育』クリエイツかもがわ)172-173頁 「ヤングケアラー支援における若者の位置」(岡部茜・御旅屋達・原未来編『若者支援政策の現在地—こども家庭庁・基本法は「若者」をどう位置づけたのか—』明石書店)121-145頁 “Carer support in familialistic care regime: controversies surrounding the legislation of supporting young carers in Japan”, at, held at the University of York, the United Kingdom, 2-4 July (the paper presented on 3 July, at the “Social Policy & Development” session). (Saito, M. and Matsuda, R., The Social Policy Association (SPA) and the East Asian Social Policy Research Network (EASP) Joint Annual Conference 2025)	2026. 3 2025. 7 2025. 8 2026. 3 2025. 7

斎藤 真緒	研究発表等 (共同)	“The ‘discovery’ of young carers: tracing the development of Japanese Policy responses” (Matsuda, R. and Saito, M., The Social Policy Association (SPA) and the East Asian Social Policy Research Network (EASP) Joint Annual Conference 2025)	2025. 7
	研究発表等 (単独)	「日本のケアラー支援をめぐる課題—ケアラー支援条例をめぐる動向を中心として」(日本家族社会学会 第35回大会)	2025. 9
	研究発表等 (単独)	「家族主義的福祉政策におけるケアラー支援をめぐる課題——「京都市ケアラー支援条例」制定過程における当事者参画を事例として」(斎藤真緒・松田亮三, 社会政策学会 第151回 (2025 年度秋季)大会)	2025.10
崎山 治男	研究発表等 (単独)	「『声』の感情労働における抵抗の技法: コールセンターを事例として」(第37回日本労働社会学会)	2025.10
桜井 啓太	論文(単著)	「網の変容—2024年社会福祉の回顧と展望」(東京: 鉄道弘済会社会福祉部社会福祉研究 = Social welfare studies / 鉄道弘済会社会福祉部 編 (152)) 60-69頁	2025. 4
	論文(単著)	「生活保護行政における職員体制: 福祉事務所の役割とは」(東京: 後藤・安田記念東京都市研究所都市問題 116 (7)) 67-77頁	2025. 7
	論文(単著)	「2013年生活保護基準引き下げ処分の最高裁違法判決による2018年以降の生活扶助基準への影響に関する検証」(武蔵野: 賃社編集室; 1972- 賃金と社会保障 = Wage & social security (1879・1880)) 97-108頁	2025. 8
	論文(単著)	「記念講演 子育て罰を受ける国: 「子どもの貧困」を乗り越えるために—特集 第41回全国保研 夏季セミナー (「父母と共につくる保育内容」) 報告: わかりたい父母のこと 伝えたい子どものこと いっしょにつくろう! 私たちの保育」(東京: 新読書社季刊保育問題研究 / 全国保育問題研究協議会編集委員会編 (336)) 76-89頁	2025.12
	論文(単著)	「生活保護における扶養照会の時系列動向と地域間格差 —2013~2022年度の全国データ」(国立社会保障・人口問題研究所社会保障研究 10 (3)) 314-329頁	2025.12
	論文(単著)	「書評と紹介 岩田正美著『私たちの社会福祉は可能か: 社会福祉をイチから考え直してみる』」(町田: 法政大学大原社会問題研究所; 1986- 大原社会問題研究所雑誌 = The journal of Ohara Institute for Social Research / 法政大学大原社会問題研究所編 (808)) 63-67頁	2026. 2
	研究発表等 (共同)	“The “Punitive Turn” in Anti-Poverty Policies in Japan.” (Kaori Katada, Takanao Nishimura, Keita Sakurai, Yukiko Shinoda, Social Policy Association and East Asian Social Policy Research Network - Joint Annual Conference 2025)	2025. 7
	研究発表等 (共同)	「生活保護申請率の動向と地域間格差の分析」(桜井啓太・奥田侑子・伊原千晶, 社会政策学会 第151回 (2025年度秋季)大会)	2025.10
櫻井 純理	論文(単著)	「生活困窮者自立支援事業における就労／訓練機会の開拓—事業主の関与をいかに引き出すか」(ミネルヴァ書房, 社会政策 17 (2)) 118-129頁	2025.10
鎮目 真人	著書(分担執筆)	『葬送的福利年 (金): 台湾年金改革的挑戦與解答』(「日本の公共年金制度與改革方向」, 巨流圖書股份有限公司) 237-255頁	2026. 2
	著書(分担執筆)	『新版 よくわかる社会福祉』(「社会保障制度の理念と体系」および「社会保険方式と公費負担方式」, ミネルヴァ書房) 36-41頁	2026. 2
	論文(単著)	「2025年年金改革をめぐる非難回避と手柄争い—基礎年金給付の「底上げ」政策をめぐる」(医療福祉政策研究 9 (1)) 79-92頁	2026. 3

篠原 郁子	著書(分担執筆)	『発達科学ハンドブック13 保育の発達科学』(日本発達心理学会(編), 野澤祥子(責任編集), 藤澤啓子(責任編集), 分担執筆:篠原郁子他, 新曜社)1頁	2026.3
	研究発表等 (単独)	「実践研究発表 シンポジウム①「臨床発達心理士の専門性向上を目指す研修会のあり方」話題提供」(日本臨床発達心理学会 第21回全国大会)	2025.8
	研究発表等 (単独)	「母親の内省機能と幼児の否定的感情の調整行動の関連:日本語版 Parental Reflective Functioning Questionnaire を用いた検討」(日本心理学会 第89回大会)	2025.9
	研究発表等 (単独)	「母親の内省機能と幼児の肯定的感情の表現・調整行動との関連 日本語版「養育者の内省機能尺度」を用いた検討」(日本教育心理学会 第67回総会)	2025.10
	研究発表等 (単独)	「幼児の母親および父親の内省機能とその規定因:日本語版 Parental Reflective Functioning Questionnaire による測定」(日本発達心理学会 第37回大会)	2026.3
	研究発表等 (単独)	「大会委員会企画シンポジウム「アロマザリングのダイナミクスからアタッチメントを捉え直す:包括的な育児理解に向けて」話題提供「アタッチメント欲求への養育者たちの眼差しと子どもの発達」(日本発達心理学会 第37回大会)	2026.3
	研究発表等 (単独)	「学会企画シンポジウム「保育の発達科学:発達心理学の知見が保育の場における子どもの発達の支援にどう寄与できるか」話題提供「家庭と保育の研究知見が照らす,子どもの発達を支える環境」(日本発達心理学会 第37回大会)	2026.3
	研究発表等 (単独)	「会員企画自主シンポジウム「変化する家族のなかでの親子の育ち『乳幼児の生活と育ち』研究プロジェクトにおける7年間の知見と今後の展望」指定討論「変化する家族のなかでの親子の育ち」(日本発達心理学会 第37回大会)	2026.3
	その他(単著)	「NPO ブックスタート「ブックスタートニュースレター」2025春夏号<専門家の言葉>記事掲載(ブックスタートは「誰かに自分の心を思ってもらい体験」を届ける機会)」	2025.4
	その他(単著)	「VERY ウェブ版記事:子どものバクハツどうすればいい?ママを救う専門家のアドバイス」	2025.4
	その他 (単独講演)	「大阪府私立幼稚園連盟人権啓発本部研修会「アタッチメントから考える乳幼児期の人間関係と発達」(大阪府私立幼稚園連盟 設置者・園長人権啓発本部研修会)	2025.5
	その他 (単独講演)	「ちやいんどネット大阪2025年度人権保育講座「保護者・地域」子育て支援コース「子どもの心は大人と育つ～幸せな子どもはくっついて育つ～」	2025.6
	その他 (単独講演)	「大阪府和泉市教育委員会教育・子ども部職員研修「子どもの心は大人と育つ～アタッチメントの基本を学ぶ～」	2025.7
	その他 (単独講演)	「NPO 法人 赤ちゃんの眠り研究所第25回育児支援スキルアップセミナー:子どものこころは大人と育つ:アタッチメントとメンタライジング入門」(第25回「育児支援スキルアップセミナー」)	2025.8
下條 正純	研究ノート (単著)	「令和7年度新潟市教育委員会主催幼児教育シンポジウム「おとながこどもにできること:アタッチメントの視点から考える」	2025.11
	研究ノート (単著)	「第46回母子健康協会シンポジウム講師「家庭の内・外のアタッチメント関係が支える子どもの安心感と発達」(第46回 母子健康協会シンポジウム)	2026.1
	研究ノート (単著)	「ライトノベルの帯を概観する」(『立命館産業社会論集』第61巻第3号)	2025.12

住家 正芳	論文(単著)	「晩年の佐藤定吉における『日本』と『キリスト教』」(『立命館産業社会論集』第61巻第4号) 1-17頁	2026. 3
住田 翔子	論文(単著)	「COLUMN 廃墟の魅力を知る」(株式会社エクスナレッジ建築知識 67(5))68頁	2025. 5
	研究発表等(単独)	「現代日本の廃墟写真とメランコリー—雑賀雄二の軍艦島シリーズを中心に」(国際シンポジウム 芸術・思想における「メランコリー」の現在)	2025.11
	研究発表等(共同)	“Fostering Empowerment through Listening: A Qualitative Analysis of Female Listeners of the Japanese Podcast ‘Over the Sun’” (Tomoko Takemura, Akiko Ogawa, Shoko Sumida, Cultural Typhoon Takao 2025)	2025.11
高橋 顕也	書評(単著)	「独自性のアンビヴァレンス: 合理化を進める社会で唯一無二を追い求める私たちが抱く希望と危機」(『図書新聞』3726号) 3 頁	2026. 3
武岡 暢	論文(単著)	「経験図再考—三『Regulation and Spontaneity (時間から見た場所の性質)』」(生きた新宿 論考集 都市の経験 1975-2025)68-69頁	2025.10
	論文(単著)	「Regional and Community Studies beyond Borders#17 「マートン資料のアーカイブ調査の思い出」」(地域社会学会ジャーナル (24))35-38頁	2026. 2
	論文(単著)	「書評: 國友公司著『ワイルドサイド漂流記』」(週刊読書人 (3604))	2025. 9
	論文(単著)	「[[書評] 申恵媛著『エスニック空間の社会学——新大久保の成立・展開に見る地域社会の再編』(新曜社, 2024年)」(日本都市社会学会年報 (43))81-83 頁	2025. 9
	研究発表等(単独)	“Changing Values Served By the Wholesale Market System: A Case Study of Japan’s 2018 Wholesale Market Law Amendment” (5th ISA Forum of Sociology)	2025. 7
武田 淳	研究発表等(共同)	“Cross-Border Lives: Exploring the Experiences of Romanian Migrants in Japan and Japanese Migrants in Romania (Presented online)” (Atsushi Takeda, Marinescu, V., Un secol de sociologie în România: Metamorfoze 2025 (A Century of Sociology in Romania: Metamorphoses 2025))	2025.10
	研究発表等(単独)	“Japanese Migrants’ Belonging Across Distances: Political Connection to the Homeland” (26th New Zealand Asian Studies Society International Conference)	2025.12
竹濱 朝美	研究発表等(単独)	「石炭火力と原子力発電の廃止、再エネ電力60%達成に必要な蓄電池必要量に関する考察」(竹濱朝美・歌川学, 日本環境学会 第51回研究発表)	2025. 6
谷原 吏	著書	『샐러리맨의 탄생』(이은주 옮김, 다니하라 쓰카사 지)	2025.12
	論文(単著)	「メディアは魔法の弾丸か? ——潜在的な国民の思いの顕在化」(新聞研究873)	2025. 4
	論文(単著)	「あらゆる世論にはクセがある」(學士會会報 (973))	2025. 7
	論文(単著)	「傷つけない AI、傷つく人間」(関東社会学会年報社会学論集 (38))19-25頁	2025. 8
	論文(単著)	「選挙と SNS、向き合い方は プラットフォームの特性で知る注意事項」(朝日新聞 Re: Ron 2025 (9/5))	2025. 9
	論文(単著)	「SNSの未来: データポータビリティと相互運用の可能性」(シンクロナス, 2050年の選挙—投票で日本はよくなるのか?)	2025. 9
	論文(単著)	“An empirical study on AI acceptance and ethical/philosophical orientations” (Tsukasa Tanihara, Taichi Murayama, Journal of Information, Communication and Ethics in Society ahead-of-print)	2026. 2

谷原 史	論文(単著)	「SNSで衆院選をチェックする注意点 YouTube・X・TikTokの「解像度」を上げるには 立命館大学・谷原つかさ准教授が解説」(テレ朝 NEWS)	2026. 2
	研究発表等 (単独)	「ネットメディアと選挙の2024年を振り返る」(2025年日本選挙学会総会・研究会)	2025. 5
	研究発表等 (単独)	「選挙キャンペーンにおける Attention Connectivity ― 選挙期における政党公式 YouTube アカウントの可視性―」(第5回 計算社会科学大会 (CSSJ2026))	2026. 3
	その他 (単独講演)	「ネット世論形成の仕組みと実態：フェイクニュース時代の歩き方」(第644回 中産連会員懇話会)	2025. 5
	その他 (単独講演)	「ネット世論が現実社会に与える影響と偽情報への対応」(内閣情報調査室 新領域・領域横断研究会)	2025. 5
	その他 (単独講演)	「メディア研修会「ネット世論」とどう向き合う？」(NHK メディア研修会)	2025. 6
	その他 (単独講演)	「SNS・ネットメディア時代の政治コミュニケーション」(マスコミ倫理懇談会)	2025. 7
	その他 (共同講演)	「2050年の選挙」(松田馨・畠山理仁・たかまつなな・谷原つかさ、シンクロナス：未来を予測する2050)	2025. 8
	その他 (単独講演)	「生成 AI 時代の日本における SNS 選挙と偽情報」(谷原つかさ・塩野誠・松田馨、2025年度第2回インターネット政治研究会)	2025. 9
	その他 (共同講演)	「座談会：加速するアテンション・エコノミーとソーシャルメディアのゆくえ」(今子さゆり・馬籠太郎・絹川千晴・谷原つかさ・水谷瑛嗣郎、三田評論10月号特集座談会「SNSと社会」)	2025. 9
	その他 (単独講演)	「SNSと選挙の現在と未来」(宝塚市市民教養講座)	2025.10
田村 和宏	論文(単著)	「こどもの見方を変革し、こどものミカタになるには」(学童保育研究 (26))	2025.11
	論文(単著)	「暮らしの場は今―障害のある人の暮らしの場をゆたかにするために」(全国障害者問題研究会『みんなのねがい』(725))	2026. 1
	論文(単著)	「暮らしの場は今―暮らしの場の支援で大切にしたい視点」(全国障害者問題研究会『みんなのねがい』(726))	2026. 2
丹波 史紀	論文(単著)	「東日本大震災の教訓はその後の災害に生かされているのか」(全日本民主医療機関連合会民医連医療 631)	2025. 4
	論文(単著)	「イタリアの災害復興とボランティアの役割 (前編)」(総合社会福祉研究所福祉のひろば)24-27頁	2025. 6
	論文(単著)	「イタリアの災害復興とボランティアの役割 (後編)」(総合社会福祉研究所福祉のひろば)40-43頁	2025. 7
	論文(単著)	「真田は先生の思想と実践」(総合社会福祉研究所福祉のひろば (308))38-43頁	2025.11
	研究発表等 (単独)	「東日本大震災・原子力災害による広域避難者調査 ―中間報告―」(丹波史紀・高倉弘士、東日本大震災・原子力災害学術研究集会)	2026. 3
筒井 淳也	著書(単著)	『人はなぜ結婚するのか：性愛・親子の変遷からパートナーシップまで』(中央公論新社、中公新書)	2025. 6
	著書(共著)	『社会学入門〔第2版〕：社会とのかかわり方』(有斐閣ストゥディア、有斐閣)	2026. 3
	著書(共編著者)	『現代社会のなかの家族』(放送大学教材、放送大学教育振興会)9-23頁、24-38頁、123-136頁	2026. 3

筒井 淳也	著書(分担執筆)	『子どもが消えゆく国の転換』(勁草書房)199-231頁	2025. 6
	論文(単著)	「変化する社会のなかでの理論の役割とは」(現代社会学理論研究)	2025. 4
	研究発表等	「社会調査・社会学からみたデジタルデータ活用の課題」(第110回 日本学術会議 公開シンポジウム)	2025. 7
	研究発表等	「誰に孫がいて、誰が孫育てをしているのか: 「中高年期の家族生活についての全国調査 (NFRJ-S23)」の結果から」(日本家族社会学会 第35回大会)	2025. 9
	研究発表等 (口頭発表)	“The Japanese View of “Successful Aging”: The Impact of Family Norms on the Desire to Live Long” The Gerontological Society of America	2025.11
	研究発表等 (口頭発表)	「大病経験と職業キャリア : 長期にわたる学卒コーホートのパネル調査分析 (6)」(第98回 日本社会学会大会)	2025.11
	その他	「「未完の課題」としての家族: 変化する家族と司法の役割」(日本弁護士連合会 家事法制シンポジウム)	2025.12
富永 京子	著書(単著)	『なぜ社会は変わるのか——はじめての社会運動論』(講談社現代新書)272頁	2025. 7
	著書 (編著者)	『岩波講座社会学 第十三巻 政治・社会運動』(山根純佳・明戸隆浩・富永京子, 岩波書店)	2025. 8
	論文(単著)	「社会運動を「立ち止まって見る」力——社会運動のバイスタンダーとしての社会運動論」(現代思想53 (9))175-183頁	2025. 9
	論文(単著)	“Evolving Autonomy Through Repair: Trial-and-Error Spatial Practices in a Japanese Squatted Space” (SAGE PUBLICATIONS INC Space and Culture)	2025.11
	研究発表等 (単独)	“Weapons of the precarious: self-employed small business activists in Japan” (Reclaiming Power Conference: Bridging Social Movements and Industrial Relations in Labour Mobilisation)	2025. 5
	研究発表等 (単独)	“The Emergence of Unintentional Social Movement: Architect's camp in Hida-Takayama, Japan” (ISA RC50 Interim Conference 2025: Human Rights in Tourism)	2025. 6
	研究発表等 (単独)	“Creating Autonomy: Everyday Reproduction and the Micropolitics of Space in the Shelter and Social Center in Japan” (2025 U Tokyo LAINAC Research Workshop)	2025. 9
	研究発表等 (単独)	「ハウジング・ムーブメントとしてのシェルター・コミュニティスペースの研究: 空間形成による自治が「安全」と「共生」にもたらす影響」(第98回 日本社会学会大会)	2025.11
仲井 邦佳	研究発表等 (単独)	「スペイン語結果構文 一周辺の構文を中心に」(日本イスパニヤ学会 第71回大会)	2025.10
中井 美樹	著書 (編著者)	“Advances in Quantitative Approaches to Sociological Issues” (Brusa Luca, Hayashi Takuya, Kimura Kunihiro, Nakai Miki, Okada Akinori, Pennoni Fulvia, Wakita Aya, Springer) pp 1 -167	2025. 6
	論文(共著)	“Work-Family Trajectories over the Life Course of Japanese Males and Females: A Transition-Oriented Comparison Using Hidden Markov Models” (Miki Nakai, Fulvia Pennoni, Springer Advances in Quantitative Approaches to Sociological Issues) pp83-113	2025. 6
	研究発表等 (共同)	“Diverging career trajectories of men and women in Japan: A comparison through hidden Markov models” (Nakai, M. and F. Pennoni, The 15th Scientific Meeting of the Classification and Data Analysis Group of the Italian Statistical Society)	2025. 9

中西 純司	著書(分担執筆)	『スポーツ政策学』(齋藤健司・横山勝彦・真山達志・出雲輝彦(編著), 成文堂「第4章 地域スポーツ政策 第1節 地域スポーツクラブの施策」)333-346頁	2025.11
中西 典子	調査報告 (共著)	「町政運営の所信に掲げた「8つの柱」で笠置町の発展をめざしたい」(山本篤志(笠置町長)+京都自治総研・自治労京都府本部, 京都地方自治総合研究所地方自治京都フォーラム(152))2-14頁	2025.8
中西 仁	著書(分担執筆)	『祇園祭と牛頭天王』(中西仁・八木透・斎藤英喜・星優也, 法蔵館)69-84頁	2026.1
	論文(単著)	「個に注目した祭礼研究の可能性」(昭和堂いまを生きる民俗学—民俗学・文化財・博物館(八木透先生古希記念論集))133-144頁	2025.6
	論文(単著)	「元生徒へのインタビューによる授業の振り返り—「関東大震災と阪神・淡路大震災」(2001年実践)を対象に—」(日本社会科教育学会全国大会発表論文集第21号)277-278頁	2025.11
	論文(単著)	「書評 中川尋史『神輿の社会学』」(週刊読書人 3628)4頁	2026.3
	研究発表等 (単独)	「「泡沫」候補から考える日本の選挙制度」(第55回授業のネタ研究会)	2025.8
	研究発表等 (単独)	「合評会・中西仁『神輿昇きはどこからやってくるのか—京都にみる祭礼の歴史民俗学』(昭和堂, 2024年)」(西村卓・中西仁, 同志社大学人文科学研究第14研究「近現代京都、まちの景観／風景に関する学際的研究」)	2025.10
	研究発表等 (単独)	「京都標準の神輿の昇き方の起源と展開」(日本民俗学会 第77回年会)	2025.11
永野 聡	研究発表等 (単独)	「元生徒へのインタビューによる授業の振り返り—「関東大震災と阪神・淡路大震災」(2001年実践)を対象に—」(日本社会科教育学会 第75回全国研究大会)	2025.11
	論文(単著)	「小集団単位である大学ゼミナールにおける多様な資金調達方法に関する研究—過去3回に渡るクラウドファンディングを例として—」((一社)情報科学技術協会情報科学の科学と技術 74(4))	2025.4
	論文(単著)	「京都市コミュニティ政策の最前線～その前史からこの30年を振り返り今後を展望する～」(永橋爲介・北川洋一・朝倉真一・佐藤友一, コミュニティ政策学会 第24回全国大会)	2025.7
永橋 爲介	研究発表等 (単独)	「京都市コミュニティ政策の最前線～その前史からこの30年を振り返り今後を展望する～」(永橋爲介・北川洋一・朝倉真一・佐藤友一, コミュニティ政策学会 第24回全国大会)	2025.7
	その他(共同)	「コミュニティ政策学会第24回全国大会分科会「京都市コミュニティ政策の最前線～その前史からこの30年を振り返り今後を展望する～」コーディネーター」(花園大学)	2025.7
	その他(共同)	「「NPO法人とよなかESDネットワーク設立10周年記念フォーラム」コーディネーター」(豊中市立文化芸術センター)	2026.3
中村 正	論文(単著)	「UNLEARN(アンラーン)の取り組み—ジェンダー公正な社会づくりに向けた男性のアクション」(日本女性学習財団月刊 We Learn(852))4-7頁	2025.6
	論文(単著)	「臨床社会学の方法(48)「男性相談」から考える男性性ジェンダー問題へのアプローチ」(対人援助学会対人援助学マガジン 16(1))22-31頁	2025.6
	論文(単著)	「社会病理としてのDV・子ども虐待の特徴と加害者への対応」(医学通信社保険診療 80(6))42-46頁	2025.6
	研究発表等 (単独)	「「男性相談」から考える男性性ジェンダー問題へのアプローチ」(中村正・西井開・宮崎浩一・大石由香, 第23回 フェミニストカウンセリング学会大会)	2025.5

根津 朝彦	論文(単著)	「共同通信初代那覇支局長の横田球生と沖縄特派員の時代 (上)—東アジアの出会いと思想形成」(『メディア史研究』(58))35-59頁	2025. 9
	論文(単著)	「共同通信初代那覇支局長の横田球生と沖縄特派員の時代 (下)—1959～1972年の在京沖縄記者会を中心に」(『メディア史研究』(59))67-90頁	2026. 2
	書評(単著)	「書評 ジャック・エリユール (神田順子・河越宏一訳)『プロパガンダ』」(『日本経済新聞』2025年 8月16日付)	2025. 8
	研究発表等 (単独)	「『ワシントン・ポスト』編集主幹のベン・ブラッドリーと日米ジャーナリズム考」(法政大学国際日本学研究所「トランスナショナルな日本」研究会(6))	2025. 6
	研究発表等 (単独)	「鶴見俊輔とジャーナリズム思想」(人文研アカデミー2025「没後10年ワークショップ 鶴見俊輔のコスモロジー」)	2025.11
	研究発表等 (単独)	「鶴見俊輔にとってのジャーナリズム思想」(中山大学人文高等研究院・京都大学人文科学研究所共催シンポジウム「鶴見俊輔と大衆思想」)	2026. 3
	その他(共同)	インタビュー記事「ウォーターゲート事件報道中心人物の自伝邦訳 権力監視の意義問いかけ」(『毎日新聞』2025年 4月 1日付)	2025. 4
	その他(単独)	「多様性の勘所と大学・ジャーナリズムの連携を見据えて」(ニュースパーク(日本新聞博物館)+新聞通信調査会〔編〕『多様性—メディアが変えたもののメディアを変えたもの』公益財団法人新聞通信調査会)	2025. 9
	その他(共同)	「リスク回避の「中立信仰」 深耕深考 私って「思想強い」?」(『立命館大学新聞』2025年 9・10月合併号)	2025.10
	その他(単独)	「ジャーナリズムの重要性と中立「信仰」、文化資本から考える大学生の生き方」(京都大学全学共通キャリア科目「メディアを担う人々」ゲスト講義)	2025.10
	その他(単独)	「応援歌としてのジャーナリズムへの提言—日本社会のジャーナリズム文化形成に向けて」(『世界』2026年 1月)	2025.12
	その他(共同)	インタビュー記事「あの人に迫る ジャーナリズム魅力もっと高く」(『中日新聞』2026年 1月 9日付夕刊 (『東京新聞』同年 1月12日付にも掲載))	2026. 1
	その他(共同)	コメント・取材協力「社説 つなぐ'26 熱狂とメディア とともに「輿論」を育もう」(『朝日新聞』2026年 1月10日付)	2026. 1
	その他(共同)	コメント「時をよむ 論説委員室から メディア不信 どう向き合う」(『朝日新聞』2026年 2月 6日付夕刊)	2026. 2
	その他(共同)	インタビュー記事「米有力紙が苦境の時代 日本のメディアは 若者引きつける工夫を」(『毎日新聞』2026年 3月 3日付)	2026. 3
野原 博人	研究発表等 (単独)	「非認知能力を構成する要素としての「自己認識」と「創造性」による科学概念の構築過程」(日本理科教育学会 第75回全国大会)	2025. 8
	研究発表等 (単独)	「ケアする学びを創出する学習環境のデザインをめざして—子ども、教師、その場にいる誰もが誰かのケアに至る学習環境—」(栗生義紀・野原博人・藤倉憲一, 日本理科教育学会 第75回全国大会)	2025. 8
	研究発表等 (単独)	「基本的心理的欲求の相補的な関係と責任—責任ある自律性の欲求を高める関係性と有能感について—」(近藤聖也・山口義亮・野原博人, 日本理科教育学会 第75回全国大会)	2025. 8
	研究発表等 (単独)	「天体 VR アプリケーションを活用した学習効果の検証および探究学習の可能性」(深谷新・野原博人, 日本科学教育学会 第49回年会)	2025. 9
	研究発表等 (単独)	「科学概念の構築過程と非認知能力を構成する要素に関する研究「—創造性」と「社会的スキル」の連関—」(日本理科教育学会 近畿支部大会 (和歌山大会))	2025.11
	研究発表等 (単独)	「非認知能力を構成する要素に関する研究—動機づけとリーダーシップスキルによる科学概念の構築過程—」(日本理科教育学会 オンライン全国大会2026)	2026. 3

長谷川千春	著書(共編著者)	『新版 福祉国家と地方財政 地方公共団体の「現場」を支える財政の仕組み』(塚谷文武・橋都由加子・長谷川千春・久本貴志・渋谷博史著 (2025)『新版 福祉国家と地方財政 地方公共団体の「現場」を支える財政の仕組み 第二版』学文社)37-41, 140-157, 158-180頁	2025. 4
樋口 耕一	論文(共著)	「KH Coder による計量テキスト分析と生成 AIを活用した解釈支援」(周 景龍・中村 康則・樋口 耕一, 一般社団法人 日本教育工学会日本教育工学会研究報告集 2025 (2))348-355頁	2025. 7
	論文(共著)	「計量テキスト分析および KH Coder を用いた論文の執筆・査読チェックポイント: 明示すべき点と分析結果の記述を中心に」(中村 康則・周 景龍・樋口 耕一, 『立命館産業社会論集』第61巻 2 号)35-50頁	2025. 9
日暮 雅夫	論文(単著)	「日本におけるフランクフルト批判理論の受容と展開 (2)」(市民科学通信) 29-34頁	2025. 4
	論文(単著)	「日本におけるフランクフルト批判理論の受容と展開 (3)」(市民科学通信) 66-71頁	2025. 5
	論文(単著)	「戦争責任をめぐる二つの歴史論争——批判理論から見た戦後民主主義——」(『立命館産業社会論集』第61巻 4 号)65-77頁	2026. 3
	研究発表等 (単独)	「勃興する権威主義——批判理論から見た戦後民主主義」(唯物論研究協会第48回大会シンポジウム)	2025.11
日高 勝之	論文(単著)	「アジアの研究者は新型コロナウイルス感染症パンデミックの何をどう研究したか: アジア研究学会第8回 AAS in Asia に参加して」(『立命館アジア・日本研究学術年報』第6 号)86-93頁	2025. 8
	研究発表等 (単独)	“(Chair&Discussant) Repetitions, Disjunctions, and Asynchronicities across 1970s Japan“ (27th Annual The Asian Studies Conference in Japan (ASCJ))	2025. 7
	その他(単独)	「未来に語り継ぐために～今、記憶を読み解く」(『創価新報』2025年 7 月号) 14-15頁	2025. 7
藤嶋 陽子	著書(単著)	『「ありのまま」の身体: メディアが描く私の見た目』(青土社)	2025. 6
	著書(分担執筆)	『雑誌利用のメディア社会学: 文化を可能にする「工夫」』(永田 大輔・近藤和都 [編], ナカニシヤ出版)243-255頁	2025. 6
	論文(共著)	「『障害』からメディア研究を問い直す」(近藤 和都・藤嶋 陽子・飯田 豊, メディア研究 108) 3-17頁	2026. 3
	研究発表等 (共同)	「『障害』をめぐるメディア研究の展開」(塙幸枝・樋口麻里・柴田邦臣・田中瑛・美馬達哉・飯田豊・藤嶋陽子, 日本メディア学会 2025 春季大会)	2025. 6
	研究発表等 (共同)	「理研 AIP 成果報告: 科学技術と社会チーム活動総括『社会と文化』」(佐倉 統・福住伸一・藤嶋陽子・水上拓哉)	2025.12
	研究発表等 (単独)	「『ファッション』を語る視点 ヴァレリー・スティーラー著作選集から考える」(学術イベント『「ファッションセオリー: ヴァレリー・スティーラー著作選集」書評会』)	2026. 1
	その他(単独)	「『ありのまま』って難しい 美容にはまったファッション研究者の葛藤」(毎日新聞社『ハナソネ』配信記事)	2025. 8
	その他 (研究活動)	「特集『ありのままを受け入れる～「ボディポジティブ」とは何か』」(TBS ラジオ「荻上チキ・Session」)	2025. 8
	その他 (研究活動)	「『ありのまま』の身体」著者インタビュー メディアによるボディポジティブの表象。その一方、SNS で蔓延するルッキズム。私たちの身体は二律背反の現場になる」(ポリタス TV)	2025. 8

藤嶋 陽子	その他 (研究活動)	「ありのままの時代を生きる私たち」(藤嶋陽子・ひらりさ, ジュンク堂書店)	2025. 8
	その他(単著)	「ハッシュタグが見つからない女。」(文藝春秋『文学界』2025年10月号)	2025. 9
	その他 (研究活動)	「特集『素を磨く』」(マガジンハウス『anan』2462号, コメント掲載)	2025. 9
	その他(単独)	「『ボディー・ポジティブを素直に受け入れられない』——立命館大・藤嶋陽子を感じた“ありのまま”の難しさ」(INFAS パブリケーションズ『WWDJAPAN』配信記事)	2025.10
	その他 (共同講演)	「ルッキズムとは何か? その課題と私たちにできることを考える」(藤嶋陽子・前川裕奈・杉本奈穂・児玉理紗, 博報堂 Woman Wellness Program「Women's Future Meetup —あしたを変えるアイデアを一緒に—」)	2025.11
	その他 (研究活動)	「女性の外見とのつきあい方とルッキズムに関する意識調査レポート」(博報堂 Woman Wellness Program 発行, コメント掲載)	2026. 1
	その他(単独)	「ファッションと身体表現の現在地」(PLANETSSCHOOL)	2026. 2
	その他 (研究活動)	「とあるアラ子×長井短×ひらりさ×藤嶋陽子「ありのままが美しい」は本当ですか?」(文藝春秋『CREA』2026年4月号)	2026. 3
前田 信彦	その他 (研究活動)	「安さと便利さの時代に子どもたちに示したい『服との関係』」(光文社『VERY』2026年4月号)	2026. 3
	論文(単著)	「中高年齢女性のキャリアと仕事におけるスピリチュアル資本—均等法世代女性の管理職経験と定年退職の分析—」(『立命館産業社会論集』第61巻2号) 1-21頁	2025. 9
増田 幸子	研究発表等 (共同)	「スピリチュアル・キャピタル: 霊的資本と教育」(加藤美紀 (仙台白百合女子大学教授)と共同報告, 日本カトリック教育学会 第49回全国大会)	2025. 8
	研究発表等 (単独)	「NHK 連続テレビ小説は「震災」をどう取り上げたか: 阪神淡路大震災の表象を中心に」(第4回 EAJS 日本会議)	2025. 9
増渕あさ子	著書(分担執筆)	“Providing Care on the Militarized Islands: Nursing Activities in Wartime Okinawa” (In Hiro Fujimoto, Aya Homeie, Ellen Gardner Nakamura eds., Medical Womein the Japanese Empire: Sources and Critique (Routledge, 2025))	2025. 6
	著書(分担執筆)	『トランスインベリアル・ヒストリー』(水谷智編, 人文書院, 2026年)第7章「日米帝国のはざまで—比嘉太郎の従軍経験を手がかりに」	2026. 2
	研究発表等 (共同)	“Cultural Constructions of Race and Racism in East Asia” (Roundtable Discussion, Inter-Asia Cultural Studies, Annual Conference, Thailand)	2025. 7
	研究発表等 (単独)	「例外状況下沖縄における福祉実践が問い直すもの」(日本社会福祉学会第73回秋季大会)	2025.10
	研究発表等 (単独)	“From Displacement to Stodied Land: Settler Militarism in Iejima” (Association for Asian Studies, Annual Conferrence 2026, Vancouber, Canada)	2026. 3
	その他(単独)	『軍事化される福祉』(「聡子の部屋」刊行記念トーク)	2025. 8
	その他(単独)	『軍事化される福祉』(刊行記念講演会, 沖縄県宜野湾市民図書館)	2025. 9
	その他(単独)	「アジアにおけるジェンダーと暴力の関係性」(第78回 SGRA フォーラム, コメントーター, 沖縄大学)	2025. 9
	その他(単独)	“Life unde Siege: Militarized Welfare in U.S.-Occupied Okinawa” (University of the Philippines, Department of History, Public Lecture)	2026. 3

松岡 宏明	著書(単著)	『其實、我們都誤讀了孩子』(松岡宏明著, 吳崇萍訳, 主流出版) 1-172頁	2026. 1
	論文(単著)	「子供の美術」(季刊保育問題研究 (337)) 41-48頁	2026. 2
	書評(単著)	「書評: 大坪圭輔著『美術の教育 多様で寛容な「私」であるために』武蔵野美術大学出版局」(『美術教育』310号, 日本美術教育学会)	2026. 1
	その他(単独)	「大阪市立幼稚園夏期集中研修会 講師」	2025. 7
	その他(単独)	「日本美術教育学会学術研究大会大阪大会 第7回研究論文の書き方セミナー (中級編)」(日本美術教育学会学術研究大会大阪大会)	2025. 8
	その他(共同)	「和歌山県ジュニア美術展覧会審査会 審査員」	2025.10
	その他(単独)	「光村図書出版社内研修会講演 講師」	2025.11
	その他(単独)	「八尾市認定こども園、私立保育所・認定こども園 令和7年度 幼児教育研修〈ミドルステージ 研修〉講師」	2025.12
松島 綾	その他(単独)	「大阪信愛学院大学 令和7年度 FD・SD 研修会 講師」	2026. 1
	著書(共編著者)	『ポストヒューマン時代のコミュニケーション学——モノと主体の関係を問い直すための視点と事例』(編著者: 石黒武人・柿田秀樹・松島綾・松本健太郎・中西満貴, 典著者: 谷島貫太・奥野克巳・菅野遼・森田系太郎・小坂貴志・藤巻光浩・埜幸枝・齋藤光之介・藤野陽平・宮脇かおり・五十嵐紀子, ナカニシヤ出版) 113-122頁	2025. 5
	研究発表等(単独)	「『コミュニケーションの条件』パネル司会」(「コミュニケーションの条件」パネルの司会の氏名を受ける。発表論文は公募によって採択されている, 日本コミュニケーション学会 第54回年次大会)	2025. 6
	研究発表等(共同)	“Emergence of Anamorphic Rhetoric in the Renaissance: Representation of Soles of the Feet in Andrea Mantegna’s “Lamentation of Christ” and Rembrandt’s “The Anatomy Lesson of Dr. Deijman”” (Aya Matsushima, Hideki Kakita, The 25th Biennial Conference of the International Society for the History of Rhetoric)	2025. 7
松田 亮三	論文(単著)	「候補性からみた医療アクセス分析: その潜在的可能性」(『立命館産業社会論集』第61巻2号) 83-92頁	2025. 9
	論文(単著)	「刑事収容施設における医療: 拘禁刑下処遇における同等待遇に向けた改革への期待と懸念」(『法律時報』第97巻12号) 128-133頁	2025.11
	論文(単著)	「看護職員: 文脈をふまえた国際比較へ」(『いのちとくらし研究所報』93号) 2-9頁	2026. 1
	書評(単著)	「書評と紹介 小笠原信実著『韓国における公的医療保険と財政: 医療の公共性と社会保障財源』」(『大原社会問題研究所雑誌』798号) 56-60頁	2025. 4
	研究発表等(共同)	“Carer Support in Familialistic Care Regime: Controversies Surrounding the Legislation of Supporting Young Carers in Japan”, at, held at the University of York, the United Kingdom, 2-4 July (the paper presented on 3 July, at the “Social Policy & Development” session)” (Saito, M. and Matsuda, R., The Social Policy Association (SPA) and the East Asian Social Policy Research Network (EASP) Joint Annual Conference 2025)	2025. 7
	研究発表等(共同)	“The ‘Discovery’ of Young Carers: Tracing the Development of Japanese Policy Responses” (Matsuda, R. and Saito, M., The Social Policy Association (SPA) and the East Asian Social Policy Research Network (EASP) Joint Annual Conference 2025)	2025. 7

松田 亮三	研究発表等 (共同)	“The Politics of Hospital Sector Reform in Japan: Local Resistance and Policy Innovations”, at , held at 12-16 July 2025 (presented on 14 July, at RC25.01 panel “Health Politics and Policy in Polarized Societies)” (The 28th World Congress of Political Science)	2025. 7
	研究発表等 (単独)	「家族主義的福祉政策におけるケアラー支援をめぐる課題——「京都市ケアラー支援条例」制定過程における当事者参画を事例として」(斎藤真緒・松田亮三, 社会政策学会 第151回 (2025年度秋季)大会)	2025.10
	研究発表等 (単独)	“Regulations, Incentives, and Persuasion: The Multi-faceted Policy Development to Restructure the Healthcare Delivery in Japan” (Trends and issues of social protection governance in East Asia)	2025.11
	研究発表等 (単独)	“Policy Responses to Child and Young Carers in Japan and South Korea: A Rapid Comparative Analysis (Preliminary Findings)” (“Social Policy Governance in East Asia—Balancing Growth, Demography, and Welfare” Workshop)	2025.12
	研究発表等 (共同)	“From Normative Ideals to Policy Realities: Rethinking the Caring State”. Paper presented at March 18, 2026, Yeonhui Hall 201, ,South Korea (organized by the” (Navigating Triple Transitions: Seminar Series 3,)	2026. 3
松本麻友子	著書(共著)	『読んでわかるパーソナリティ心理学』(小塩真司・松本麻友子・松岡弥玲・中島奈保子, サイエンス社) 1-200頁	2025. 9
	著書(分担執筆)	『ワークでチャレンジ教職課程—生徒指導・進路指導の理論と方法—』(西口利文・松山康成・ハツ塚一郎 (編), ナカニシヤ出版)78-83頁	2026. 3
	著書(分担執筆)	『ワークでチャレンジ教職課程—教育相談の理論と方法—』(西口利文・三村覚・内田裕之 (編)ナカニシヤ出版)12-17頁	2026. 3
	研究発表等 (単独)	「心理学コミュニティ・ネットワーキングイベント2025—ワーク・ライフ・ケア・バランス—」(松本 麻友子 (日本心理学会男女共同参画推進委員会), 日本心理学会 第89回大会)	2025. 9
	研究発表等 (単独)	「スマートフォンアプリケーションによる生活分析的カウンセリング法を活用した心理教育プログラムの効果検証—抑うつ低減効果の個人差に注目して—」(日本心理学会 第89回大会)	2025. 9
宮尾 万理	論文(単著)	“The effects of thematic roles on the choice of referents and referential forms in L2 discourse production” (Ritsumeikan Studies in Language and Culture 37 (3))pp101-115	2026. 3
	研究発表等 (単独)	“Thematic roles influence next-mention likelihood and pronoun use during discourse production in L2 English” (The Japan Second Language Association Autumn Conference 2025)	2025.10
村田 観弥	著書(分担執筆)	『子どもの理屈からはじめる特別支援教育』(北大路書房)175-189頁	2026. 3
	研究発表等 (単独)	「「障害の人権モデル」からインクルーシブ教育システムのための教員研修を構想する—パターンリズム、チャリティモデルに陥らないために—」(日本教育学会 第84回大会)	2025. 8
	その他 (単独講演)	「インクルーシブ教育システムと合理的配慮の基礎講座」(兵庫県教員研修)	2025. 9
柳原 恵	著書(分担執筆)	“Tanaka Mitsu and Ribu: Liberation Begins with Me.” In Christopher Perkins and Ferran de Vargas (eds.), <i>Political Thought and Japan’s New Left Movements: Transformations in Radical Theory</i> . SOAS Studies in Modern and Contemporary Japan. London: Bloomsbury Academic.	2026. 1

柳原 恵	研究発表等 (単独)	「チリを揺るがしたフェミニズムの「津波」——性暴力・性差別に対する女子学生の抵抗実践を中心に」(お茶の水女子大学ジェンダー研究所セミナー「ラテンアメリカからひらくフェミニズム——生の収奪に抗する知と実践」お茶の水女子大学)	2025. 7
	研究発表等 (単独)	「三陸の女性たちが語る三度の震災と戦争」(地域女性史研究会例会立命館大学)	2025.11
	その他 (単独講演)	「埋もれた女の歴史を掘り起こす——地域女性史の視座」(道南ジェンダー研究ネットワーク・ジェンダーカフェ)	2025. 4
	その他 (単独講演)	『日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム』刊行記念ブックトーク(シスターフッド書店 kanin)	2025. 5
	その他 (単独講演)	「『日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム』刊行トーク「ラテンアメリカのフェミニズムとつながるために」」(エトセトラブックス)	2025. 6
	その他 (単独講演)	「『歴史評論』第892号(特集 オーラル・ヒストリーがひらく世界)合評会における討論・コメント」(『歴史評論』第892号合評会, 駒沢大学)	2025. 6
	その他 (単独講演)	「『日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム』刊行記念トークイベント」(立命館大学衣笠キャンパスブックセンターふらっと)	2025. 7
藪 耕太郎	著書	『アメリカのプロレスラーはなぜ講道館柔道に戦いを挑んだのか: 大正十年「サンテル事件」を読み解く』(集英社)	2025. 8
	論文(共著)	“Ad Santel Is Coming to Town : The 1921 Yasukuni Shrine ‘MMA Fights’ between Catch Wrestling and Kōdōkan Judo”(Yabu, Kōtarō, and Andreas Niehaus, INTERNATIONAL JOURNAL OF THE HISTORY OF SPORT 41 (4))pp355-373	2025. 5
	研究発表等 (単独)	“Mixed Martial Arts Matches as an Opportunity for Understanding Western Combat Sports and Transforming Jūdō: The Memoirs of Maeda Mitsuyo” (The Fourth EAJIS Conference in Japan)	2025. 9
	研究発表等 (単独)	「海外での異種格闘技試合の経験に基づく前田光世の柔道観と勝負観」(第39回 スポーツ史学会)	2025.12
	研究発表等 (単独)	““The Phantom Olympian: Or Why Was Sakamoto Yuzō Stripped of His Eligibility?” (The 1920 Antwerp Olympic Games: Japan, Belgium, and International Sporting Exchange)	2026. 2
山田 宗寛	著書 (編著者)	『みらいへつなぐ福祉滋賀』(山田宗寛・市川忠稔・口分田政夫・山本朝美・溝口弘・辻哲夫, 滋賀県社会福祉協議会)49-62頁, 91-109頁	2026. 3
	研究発表等 (共同)	「子ども・若者支援に関わる実践現場と専門職の“ゆらぎ”を支える基盤について考える」(山田宗寛・中島円美・西村真以, 日本子ども虐待防止学会第31回大会)	2025.11
吉田 誠	論文(単著)	「米国自動車産業における先任権登場に関する予備的考察: 前期ニュー・ディール政策下の ALB が果たした役割」(『立命館産業社会論集』第61巻 1号) 37-52頁	2025. 6
	論文(単著)	「1950年以降の先任権評価の変化: マギレのなさの喪失に関する一考察」(『立命館産業社会論集』第61巻 2号)23-34頁	2025. 9
	その他 (単独講演)	「米国の先任権と日本的雇用」(関西蔵前午餐会)	2025. 7

